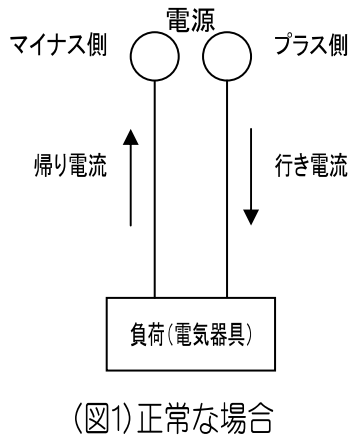


タムログ

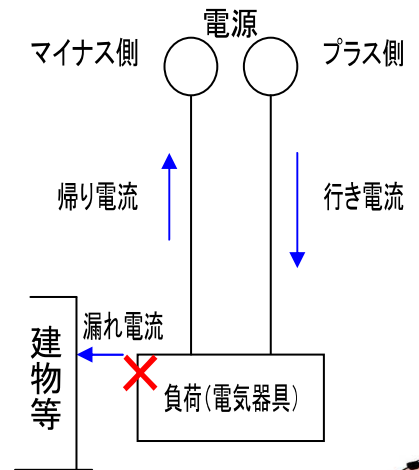
第124号
2014年

漏電で火災？

火災の原因として「漏電」と言われることが時々あります。漏電で火災が起こるとはいったいどういうことなのでしょう？
そもそも漏電とはどういうことでしょうか。漏電とは電気が漏れるということですが。正常な場合、電気はプラス側から流れてきて、負荷（電気器具など）を通してマイナス側へ戻ってきます。この時、「行き電流」と「帰り電流」は同じ量です。図1



ところが、電線または電気器具に何らかの損傷が起こり、電気が他所（建物の金属部など）へ流れ出ることがあります。図2
この時「漏れ電流」が発生するため「行き電流」より「帰り電流」が少なくなります。



(図1) 漏電発生時



電線、器具の損傷部では電気回路と建物とは不完全な接触をしていますので、スパーク（火花）が発生し、そこに燃え易い物（ホコリ）が、実際電気器具の中はホコリがたくさん溜まっています。すがあれば発火することになります。ただし、最近の住宅には漏電ブレーカーという物が付いており、このような「漏れ電流」が発生した場合には電気を遮断してくれますので火災はほとんど起こりません。



漏電ブレーカー

行き電流と戻り電流の差を検知して遮断します。通常、過電流遮断器も兼ねています。

それでも火災が！

分電盤周辺が火災の発生場所であった場合、「漏電が原因」と言われることが多いですが、実は漏電ではなくブレーカーの接触不良による火花が主犯であることが多いのです。



漏電ブレーカー

一般家庭によくある漏電ブレーカーは上下3本の電線をビスで締め付けています。これが時間の経過と共に緩み接触不良を起こし、火花がホコリ等に引火することによって火災が発生することがあります。この時には漏電ブレーカーは働きません。10年を経過した分電盤とかブレーカーは点検したほうが良いと思います。



消防団員募集中

帯江分団ではボランティア精神溢れる若い方を募集しています。

